

氏形圖說

農事部

九

特別
= 1
2442
9



二一
2442
9

小野岡
氏藏書

成形圖說卷之九

均田目錄

附度竿

役丁

黃冊

成形圖說卷之九

昭和十八年
一月十七日

成形圖說卷之九

農事部均田

班

田^々書紀○續紀天平元年三月班頒也田^々分田^々依^々令^々收授^々於^々事^々不^々
 便請悉收更班令義解班頌也田^々所以^々殖^々五^々穀^々之^々地^々也^々凡^々
 田^々六年一班萬葉集に班田使の事^々也^々六^々年^々一^々度^々づ^々
 つ^々諸^々國^々の^々田^々地^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 校^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 給^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 田^々割^々孝^々德^々賦^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 部^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 地^々の^々官^々部^々ハ^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 檢^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 視^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 姓^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 謂^々田^々史^々に^々式^々等^々の^々校^々田^々と^々改^々ら^々る^々に^々班^々田^々使^々の^々事^々也^々
 成形圖說卷之九

均田五代史周世宗嘗夜讀書見唐元稹均田圖歎曰此致
 治之本也詔頒其圖法吏民先習知之期以一年歲大均
 天下通典宋熙寧五年重修方田法○文獻通考宋
 之田神宗定方田法參定肥瘠而分五等以定稅則
 括田廣治平畧○玉海開元九年以宇
 文融為括田使括逃戶及籍外田分田孟子分
 量田大學衍義補今世量田用
 踏勘丈甚疏鈔
 丈量歸田錄以丈尺
 打量觀清丈田地
 蕃名アフメーテイングハンデライン
 孝德紀大化元年新詔曰凡國家所有公民大小所領人眾
 汝等之任皆作戶籍及校田畝校田畝謂檢數墾田頃畝及
 民戶口年紀白雉三年至是班田既訖とんえつ是後國
 檢地の始ありも是より前 履中の御宇檢校天子之

百姓とハ公田と私も支配して檢地せしむ也田
 令曰凡校田先課役後不課役先無後少先負後富建武記
 曰就田數可支配事遠國三十町中國二十町近國十町別
 一人分面ヒ可參勤當知行之地不足之輩者可沙汰渡課
 役於惣領若無惣領者可辨其郡催促之役人
 丈古事記○凡上古地と度及長短と量る
 亦中著の物
 卷ハ間竿の
 檢竿 打竿 尺丈
 度竿通 丈篙 篙尺量以上繩 歩弓大學衍義補按
 談正音 唐山の畝率ハ自



歩を以て一町とせば一歩を以て一夫一日の食と
 して一町一年の食分を充てんと志するはかく約らして
 いふ一乃王法と交られ一は万民争り窮乏しんさ
 ればは法再びあふ復んこと井田一とて復して復一難
 がごとくちりぐ一蓋をた氏丈量とせしるよじりの
 一とて或一郡一邑一荘と異んあは六十餘畝の地は是
 ぎふとおもひくかくハ計らるる一やとあり蓋氏曰天
 正のまの水帳は一段三百歩とありは本間より始るよ
 紀伊とつり又民間ありハ或六尺二寸より三寸四寸
 前崎等の差たり或曰文禄よりハ歩法六尺三寸一歩ハ

是畦と除く宛り一あり或六尺五寸ハ畦越かて宛じ
 是近來のものあり田と人、家よく一見見は田の畦ハ家の
 敷居のどと一又縁の歩法六尺三寸方ハ二帖の定尺
 也是と家の間も積よ六尺三寸ハ柱の中間毎にありそ、
 柱横六尺の家のハ六寸角八尺の家のハ八寸角あり家の長
 是四角方のあり柱の幅は敷居出入りそ、皆は横三尺一
 寸五分縦六尺三寸尺の身とて廣く一は狭く一は合
 るはちり然らば小き畦とてありは六尺五寸裕な
 くあり大ききる畦と加てありハ一はちりあるるをさし
 あり又檢竿の長六尺五寸とあり六尺三寸とありと

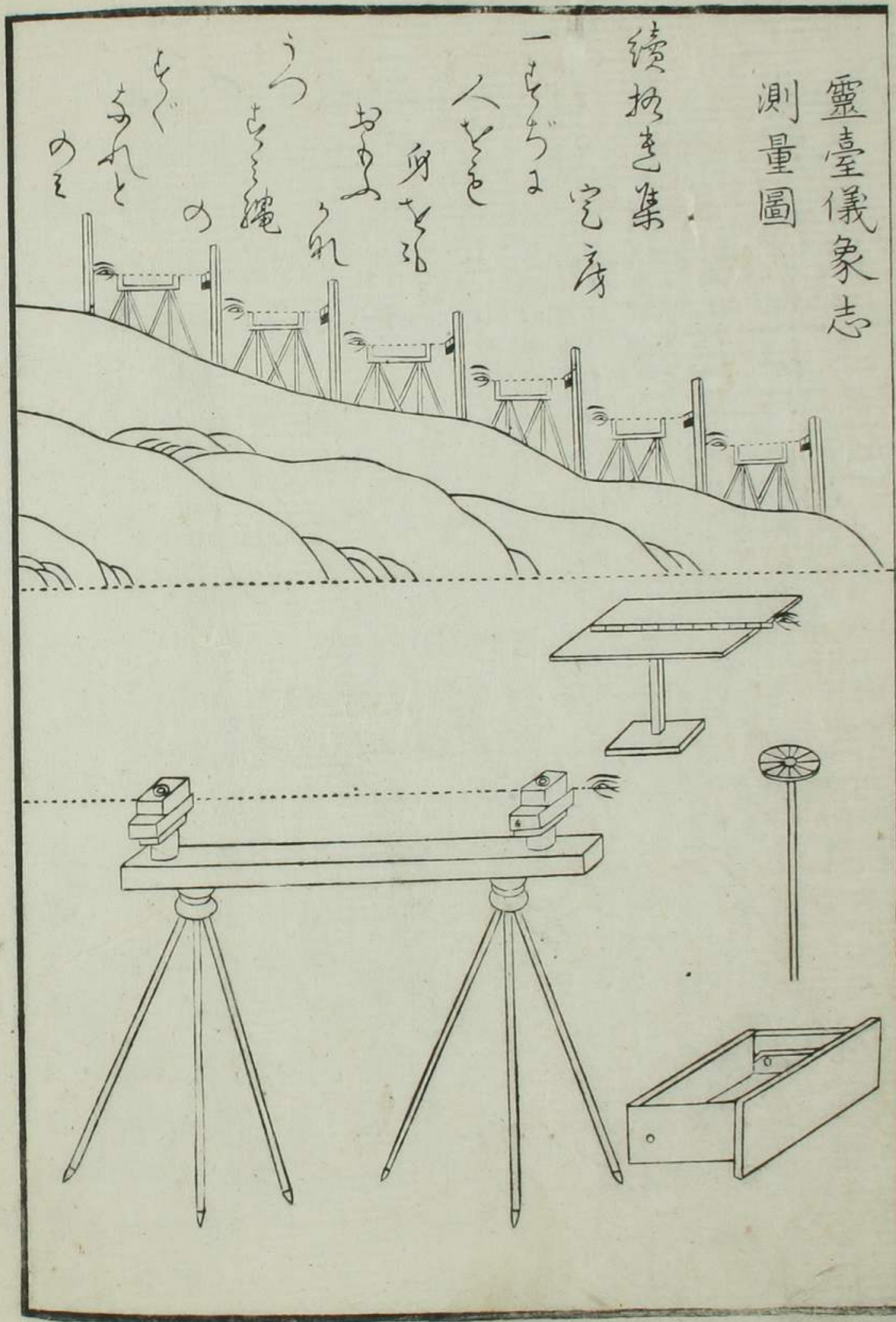
て尺もバ是睦と除て究しつはるるべし
古事記傳曰凡家の柱と柱との申哉中間と云ハ記の所謂ハ箇間もあつり律原發揮
曰以曲尺六尺五寸為一步俗稱一間筭路用之又六尺三寸為一步俗稱京間每蘭席二間置一其濶四寸折半之配一則得二寸以減六尺五寸餘六尺三寸為一
間之法筭田積用之又六尺為一步俗稱一間今按一
後俗の從より瓊矛拾遺曰紫宸殿清涼殿等ハ七尺間也
凡伸中指以十為間巨下之屋作凡伸中指以九
為間故以六尺三寸為一疊間是古の制といつり
○凡竿よ
 てあつりき解交は繩引して地と量法と向繩又水繩管
 繩等の名何れ其繩約長一町或百間みして一間のふり
 絢垂十間の所は色種イロフチの記號キルシとほくふなる但繩よて
 畝段展ヒどして縮るゆゑ竿とふも竿とあ竿ばかりよ
 てを展ヒど同く置竿と用う皆權通よりあつるふことなり

凡丈竿ツササホを二間あつて一丈二尺之と一間よ一分づつ
 飯計イヒサシとつて百丈子丈といつと寸歩と終らば
量むるもき數百粒と竿取の巧拙よく靴履何ふとを
法がそはく少と私ふく細査シバシもるあつるを俗に物の麴
語や一丈増違とらふハ田地の増敷と相違やと云
 いつり○竿と折る尺寸と去て某間まをむり云
 十間五尺五寸とあつる時ハ十間まを定て零ヒの二尺
 五寸ハ去ヒとる又十増ヒを横と二尺五寸づつ五
 尺を零ヒとるハ一方ハ十増ヒとあつて折れ尺凡太
計るよ寸尺まで細く究むてハ反て尺費ヒと坐ヒて煩ヒ
しき伊急孝徳紀にも半と五寸と訓もつる五寸と云れバ

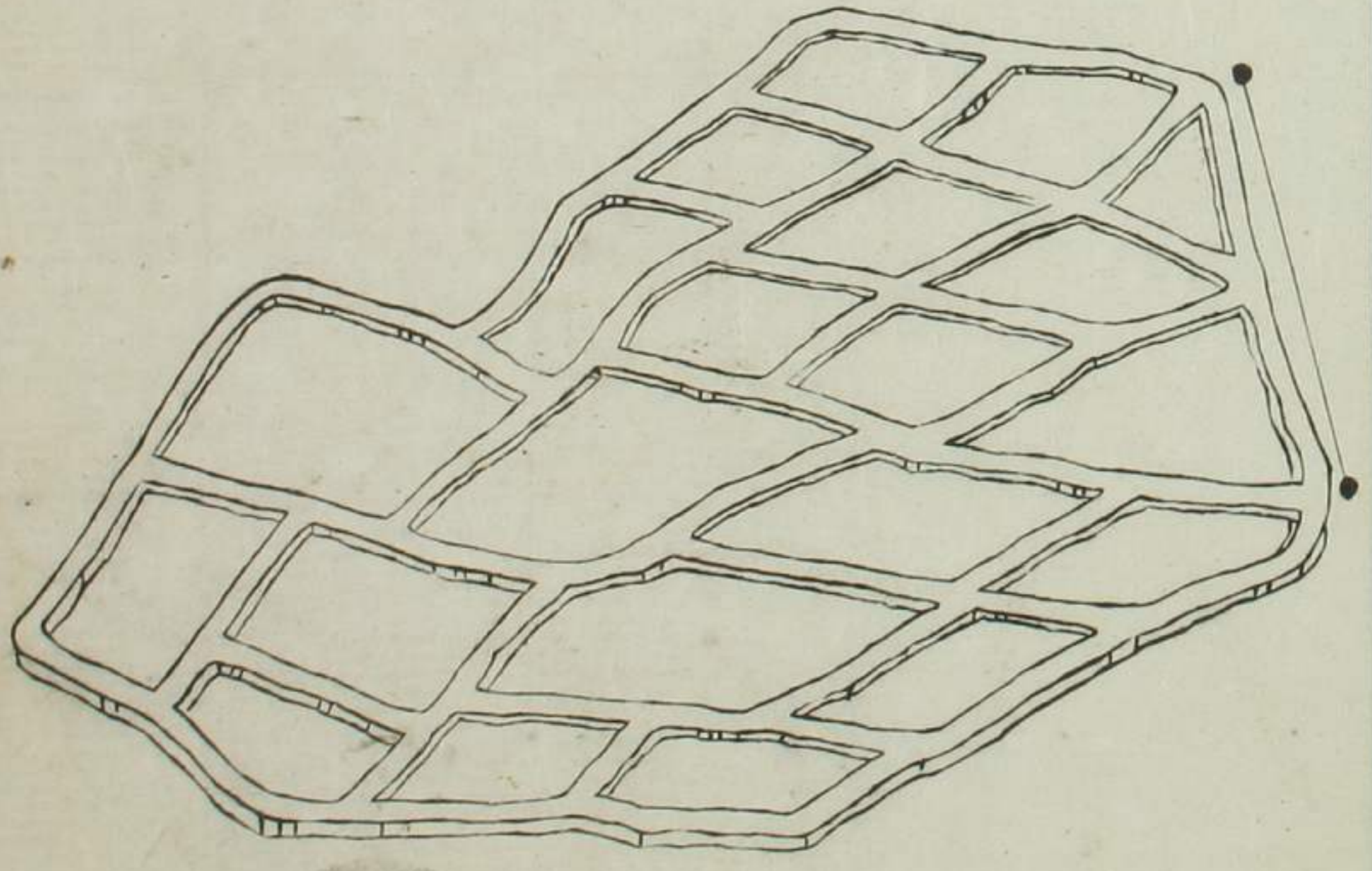
半とありて計りて早荒ハ有姓ハ餘計何ら志じべ
 きるあり候計とつふとと時零と云がごとし
 折子ハ居檢地地押等ノ分取里浮ふるあとの吾國有司
 の存とる不たる○主稅式上田中田下田下田の差
 等と裁らるるとも同地の肥瘠を就て冬定冬定のなり馬
 貢上中下の名とす土宜子由て貢賦とす志溝
 高田五倍下田十令曰凡度地量銀銅穀者皆用大大ハ大
 倍量倍量の所ニ度地ハ町間積みて測量規矩の法といふ東
 鑑曰大輔房源性源進士左衛門尉整子無雙算術者也加之見田頭
 里坪於眼精之所單不違段歩町段と知るハ吾算法の上
 にもちふふとある或あこし心算の村里田をぬ晋州の城
と攻めりるは平安河とて大河ありそ

瀨と諸家乃者其町見とい尺つとりしに其川幅七
 町或十二三町有る金一とまぢくして定めざりし故
 の家長吉田長利回二男重成と命し其川の濶何程うあ
 るお違ふさきやうとわが量と命しはるはあ人ら
 組子相渡さるると十町餘の川表のうまれば相違あさや
 うに積らんとさきと見成るは組の者各連川のちと
 見又折除てじうふと尺餘せば物縁三人川端より出て
 折見らる候なり言成と案して朝鮮のハ長高とい
 つゞくと系組乃小柳権七師ハ大男と案しハ長高とい
 考まきとさきとおひの権七を呼ばし何の川向り人丈尺
 尺ゆりまでこの土を束乃方一尺重し是らり尺あり
 せそと款とおれし程は尺ゆり時重し赤太鼓乃輪の
 指物とあると則そに立らばは款川はと立さき
 ざ係内子よと款とて是らる候七尺重しはと立さき
 敵といと尺ゆり時指物を換らばはと立さき
 とはる乃その皆乃間敷と尺に八町五段微飯と
 ちるなりや ○昔ハ田地の方限を四至として定む四か
 とは式ニ山城國地二町在葛野郡十三條水谷下里四至

靈臺儀象志
測量圖

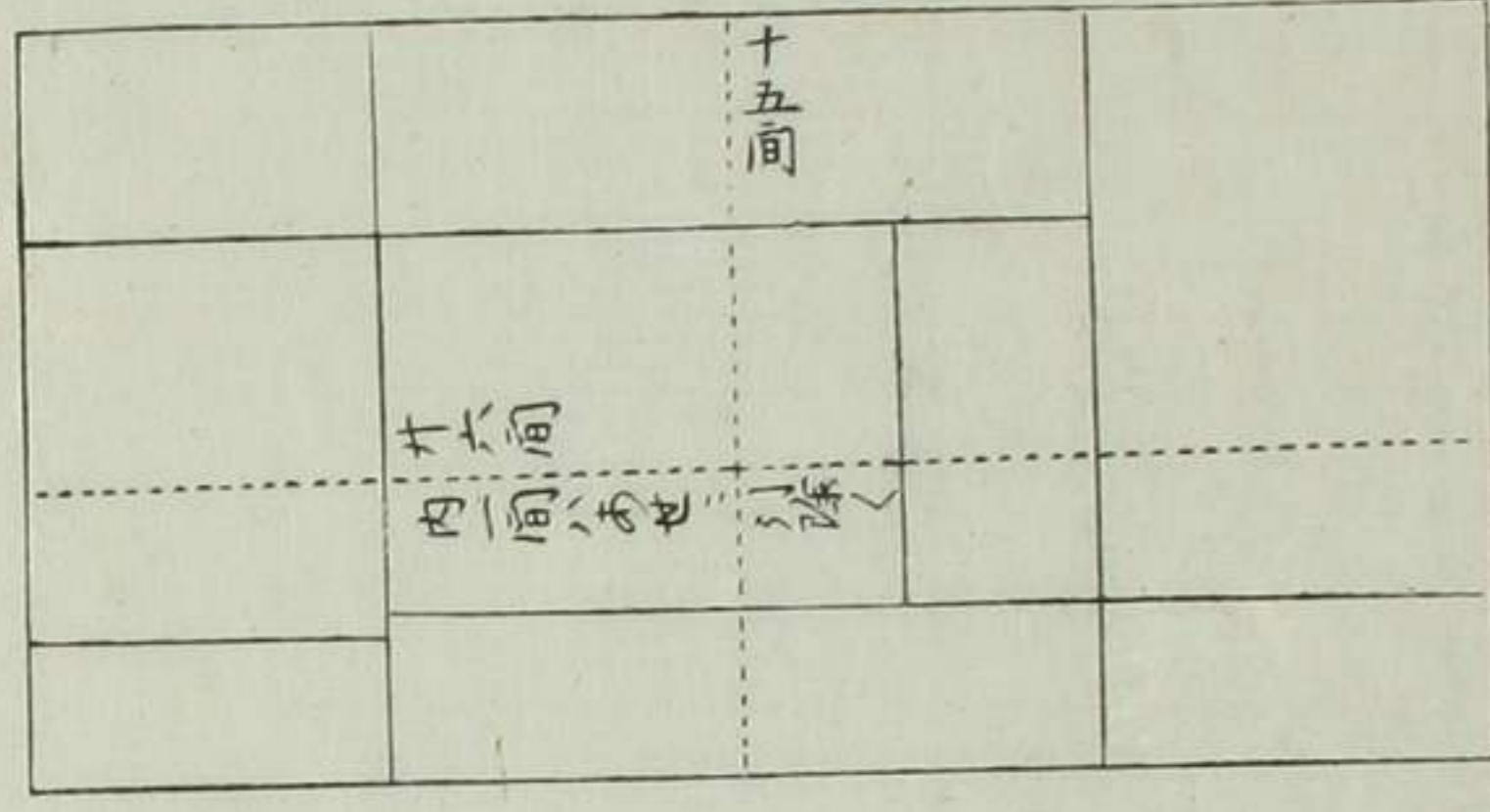


此景儀令ハ黒圈初見の
角の方子あは羅針と
儀一第二の角と度里を
方向針盤の何分ある
と記一其間の長短と林
索ふく度里何分何尺あ
ると記一其間圓と皆
かくして度里終り角と
方向并に其間の長短と
記一後于記よりりて小
圖と儀より準一尺ると
まハ圈内何所何處あり
ととと漢子志あり



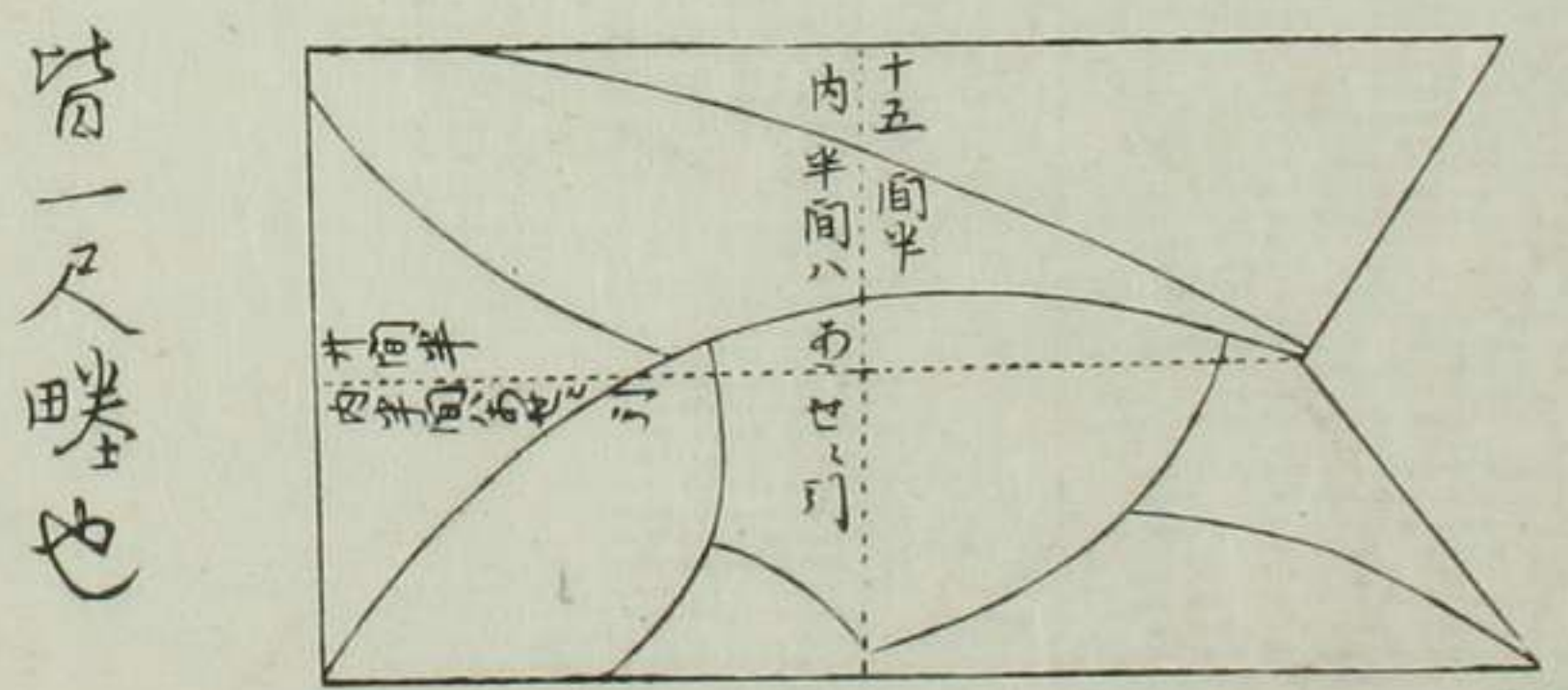
上田 十五間 一段二畝拾五歩 石二

横一尺五寸
 寸睦二其
 お八寸の
 小睦也毎
 圖は墨を
 引ハあせ
 朱と引ハ
 竿筋也



此家ハ皆あせ
 と終て間越
 少後ハあせと
 引つゝ竿子
 宛る也又始あ
 せと身建手
 間と宛るる
 竿とあせと
 しと理同し

中田 十五間 一段一石 四斗

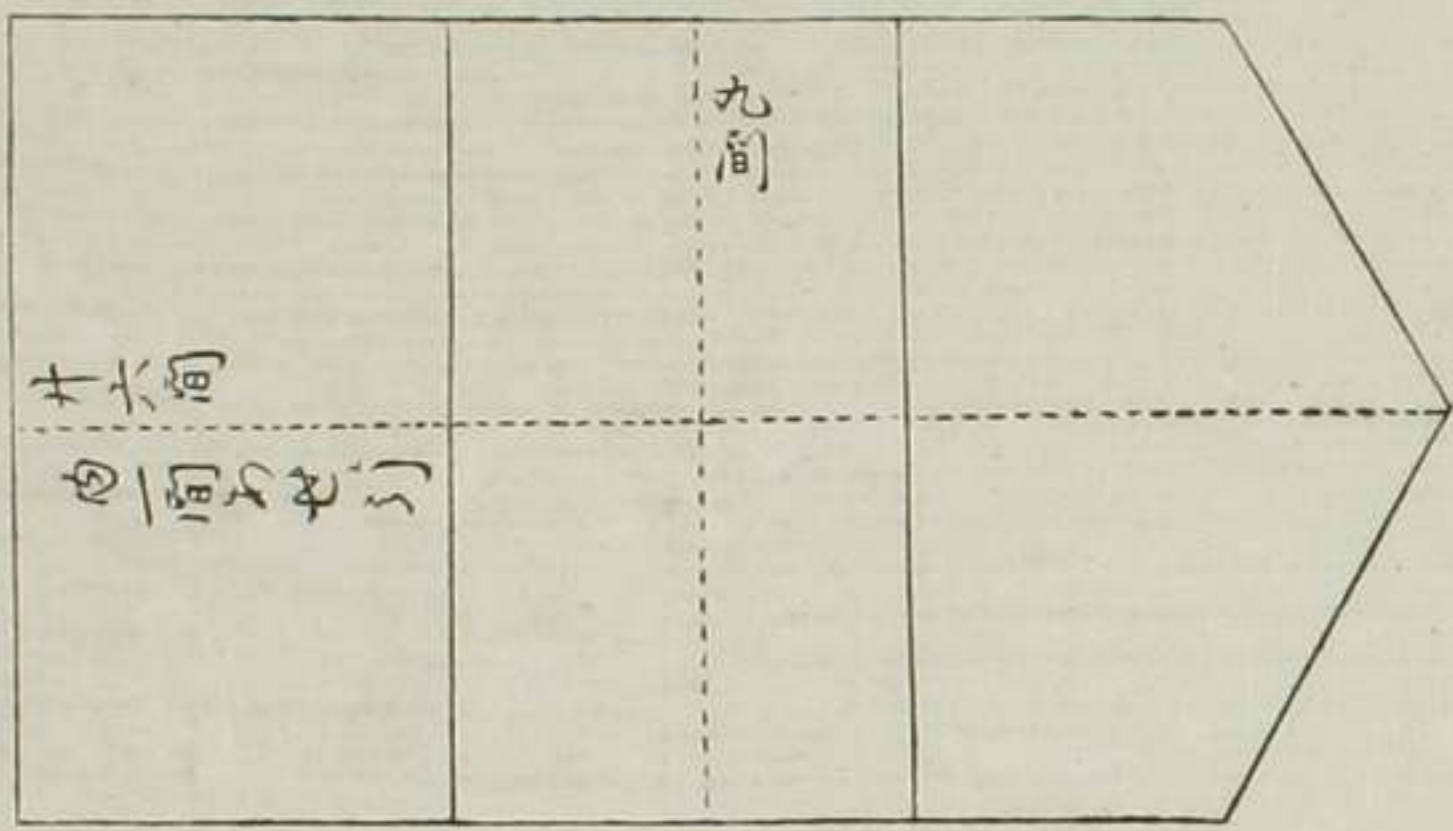


皆一尺睦也

此他一方界
 直うはたぬ
 此ちうまぬ
 入引合せ間
 と宛るも矯
 竿と異く矯
 竿のちあせ
 記すらぶと
 し

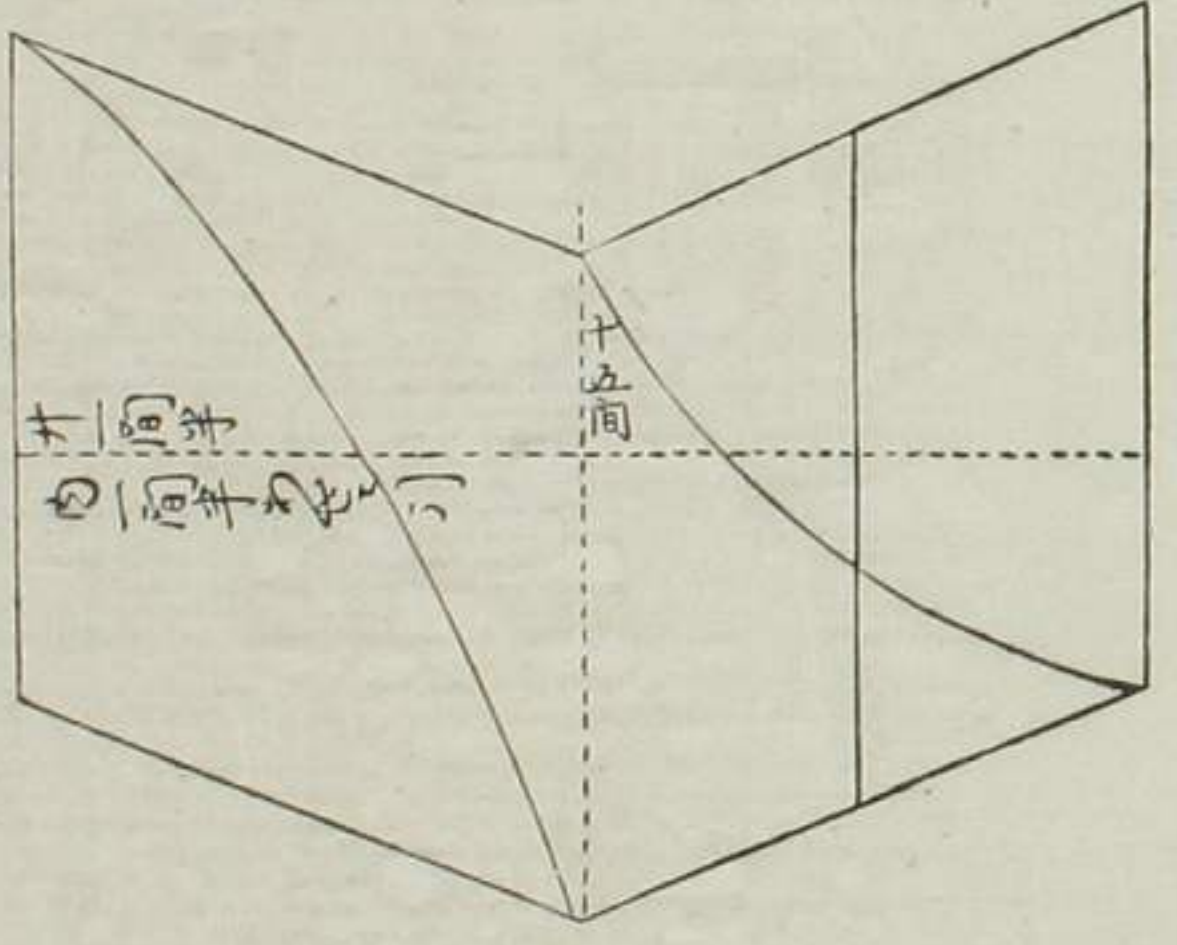
下田 九間 七畝拾五歩 斗九

三尺高
 あせ二
 あせ



此石附
 又高と
 カラ

上田 十五間 一段一石 四斗

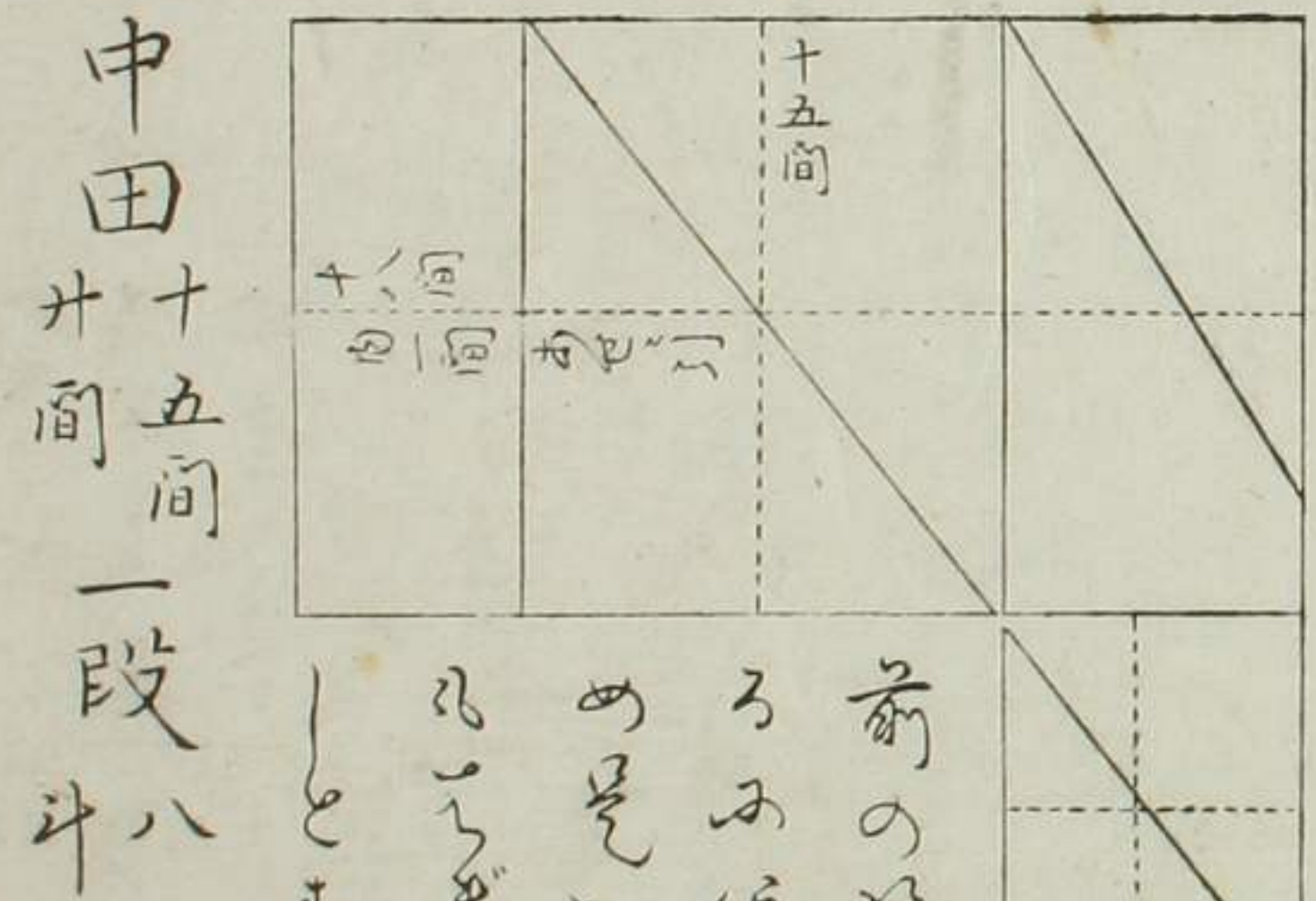
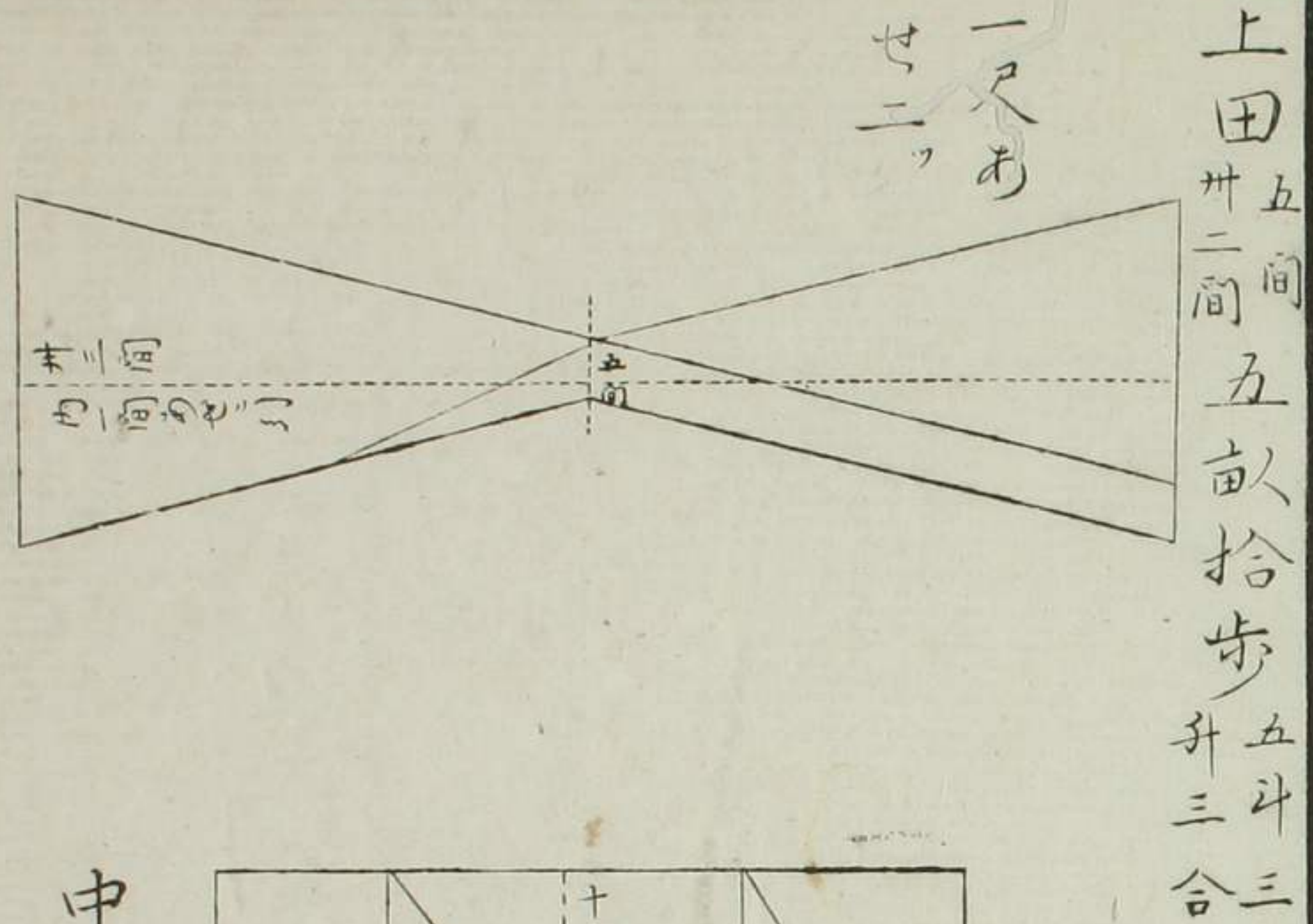


横三尺高
 あせ二
 あハ一尺あせ也

中田 十五間 一段一石 二斗

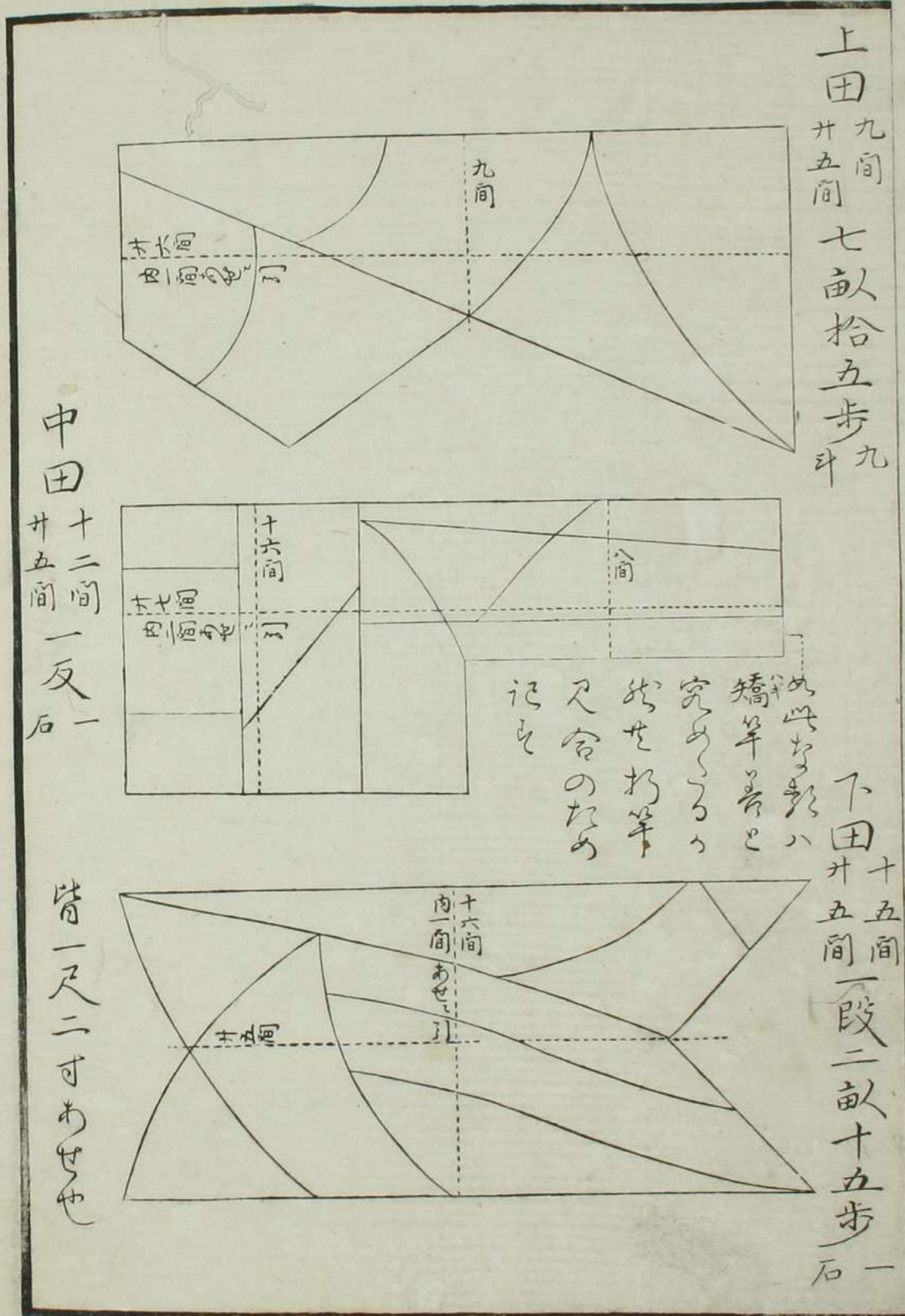


八寸あせ
 一ッあり

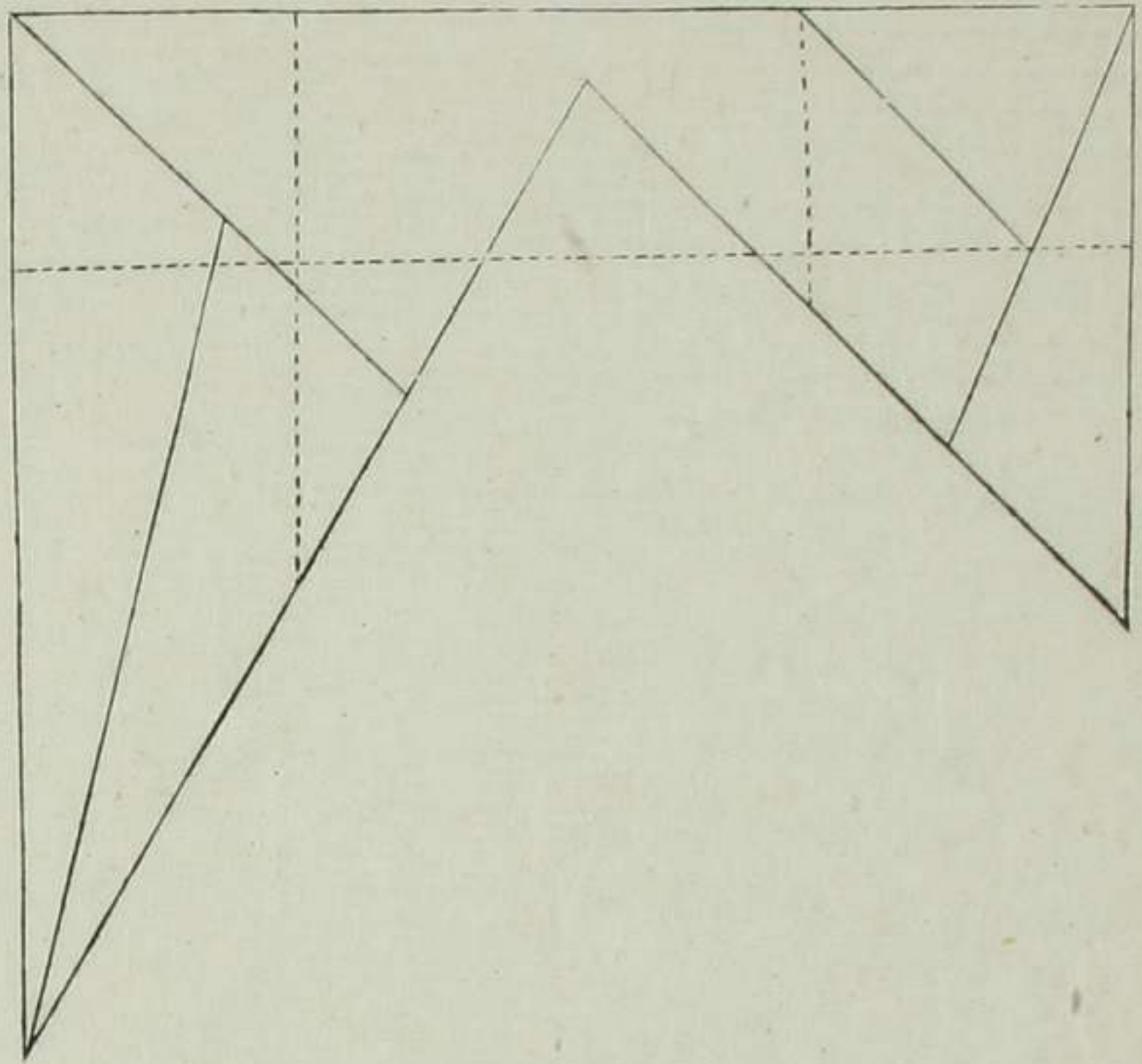


此出さき波間よりくや
前の竿より次竿とあ
るみ依て見合をのた
め是と記し如是なる
凡そ竿より完る由
しとさぶきり

此出さき波間よりくや



下田 十二間 一段 一石

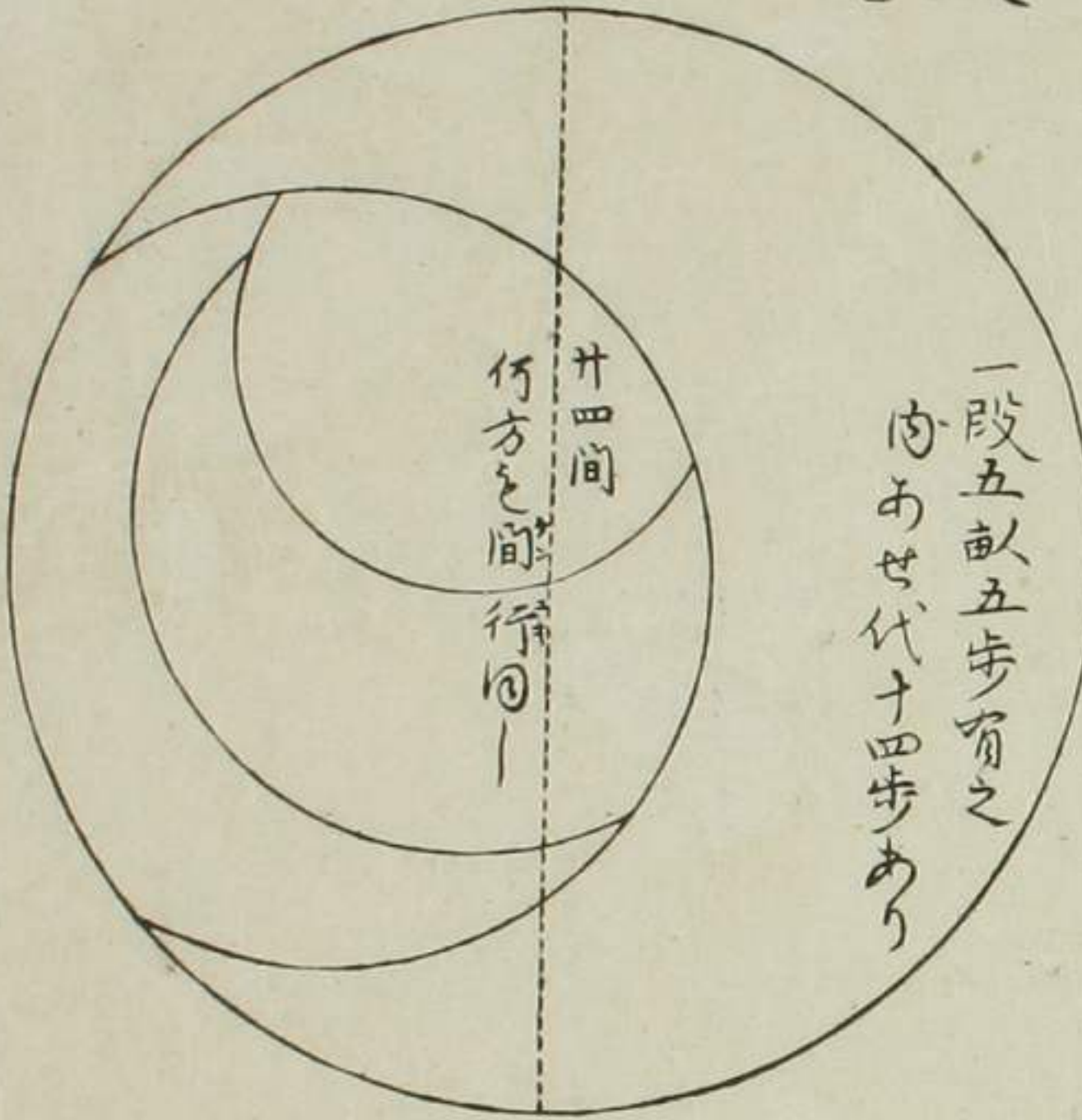


皆一尺二寸あせ也

是ハ二、どりの折半也折
半と云ふ事記さるが
只一折半と云ふも
子依て如此さるハ二
も亦さあれバ二、より
て総里さるやとあづ
は石附分来と号し外
高と云ふ也上村中村
同ノ度と云ふ中村高
ふあとかくのどと下
下村の向を準之

下田 井一間 一段 四畝 廿一步 八斗 八升 二合
外十四歩あせ除く

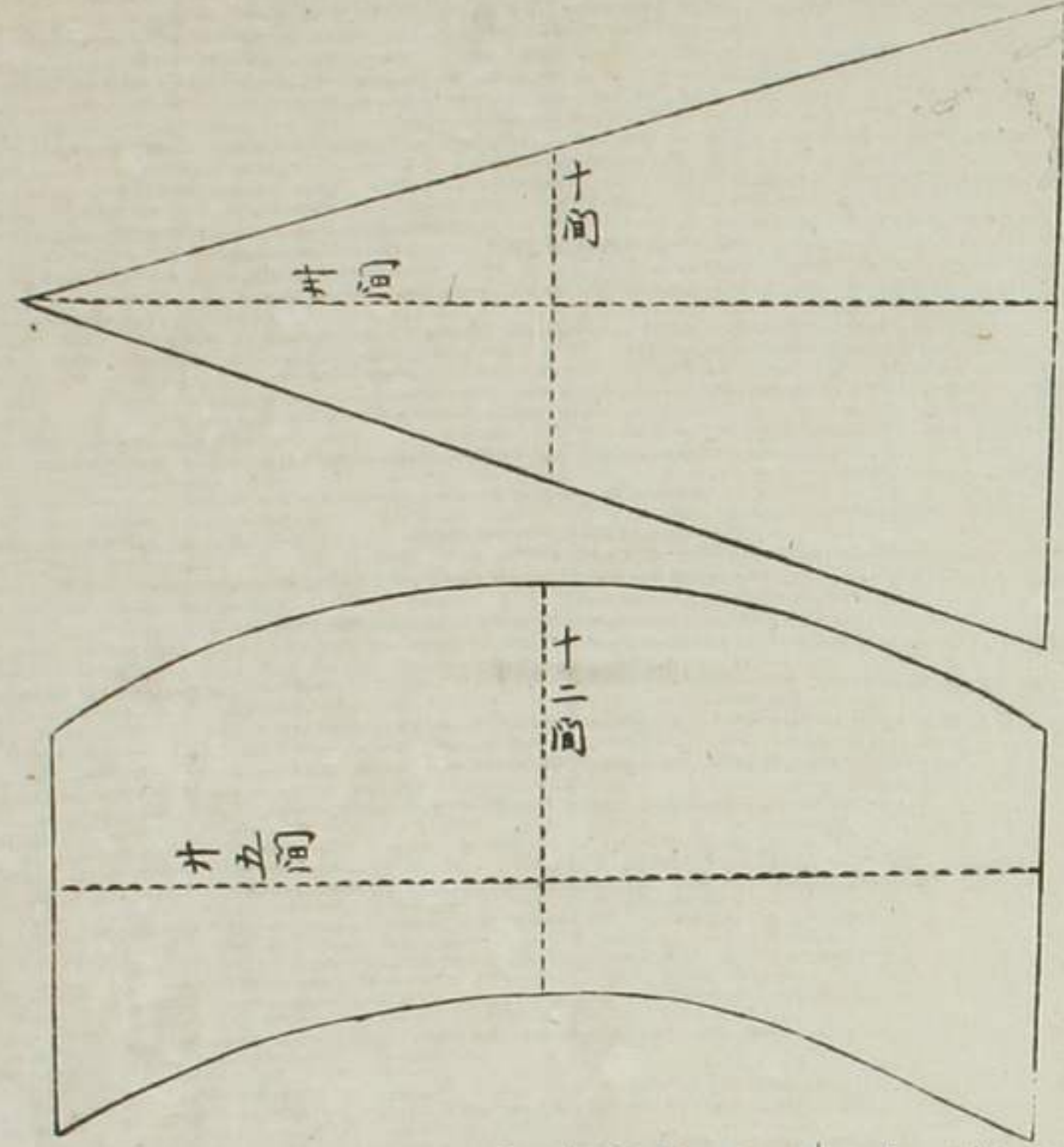
皆一尺
あせ也



上村畠檢地 上畠一反一石二斗賦
中畠一反一石賦
下畠一反八斗賦

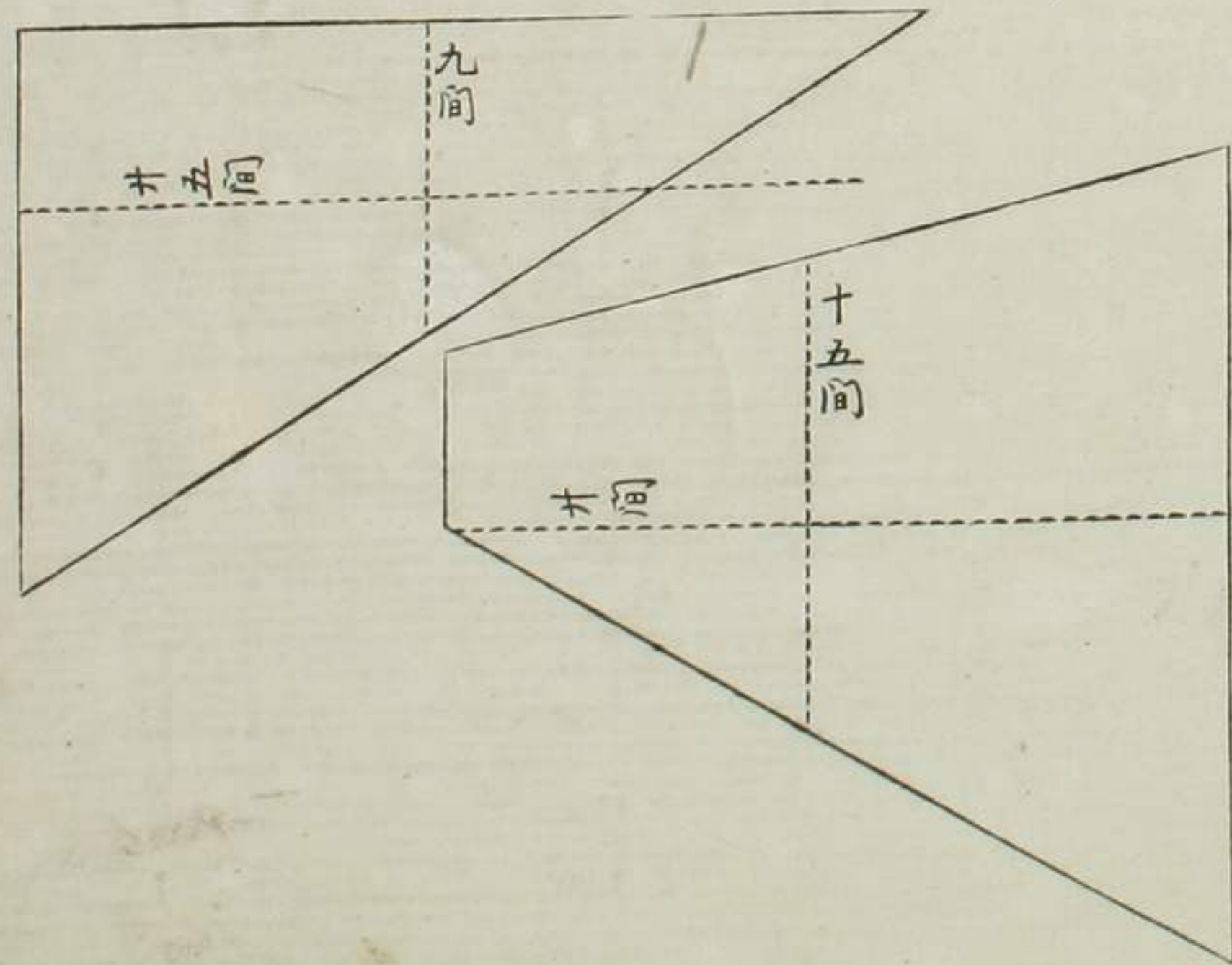
りやうなるハあせと引
除き角にあしてたてよ
こ此一畝も有る也是ハ
算法と云ふ宛る半也
城と手に残りて如此
なることハあせは又
ゆりやあせと知事あり

下畠 十二間一段斗六



中畠 十間一段斗八

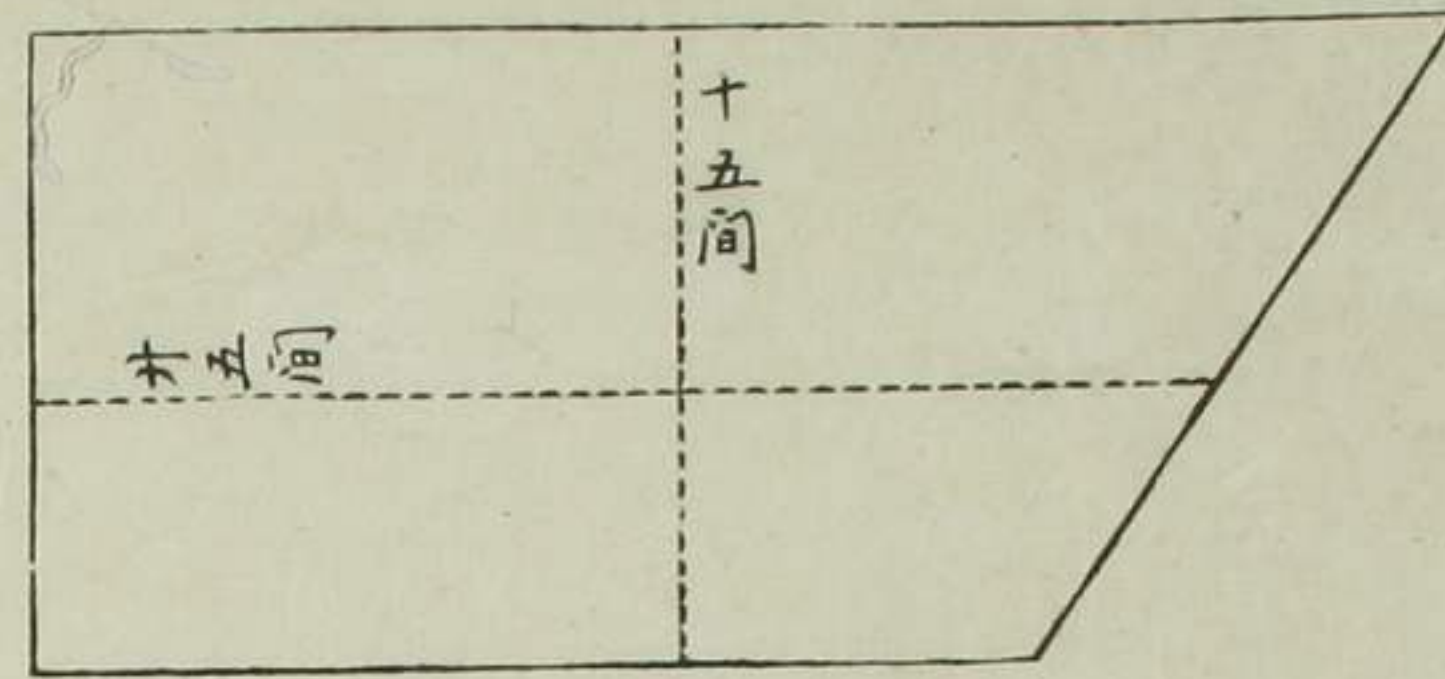
上畠 九間七畝拾五步斗六



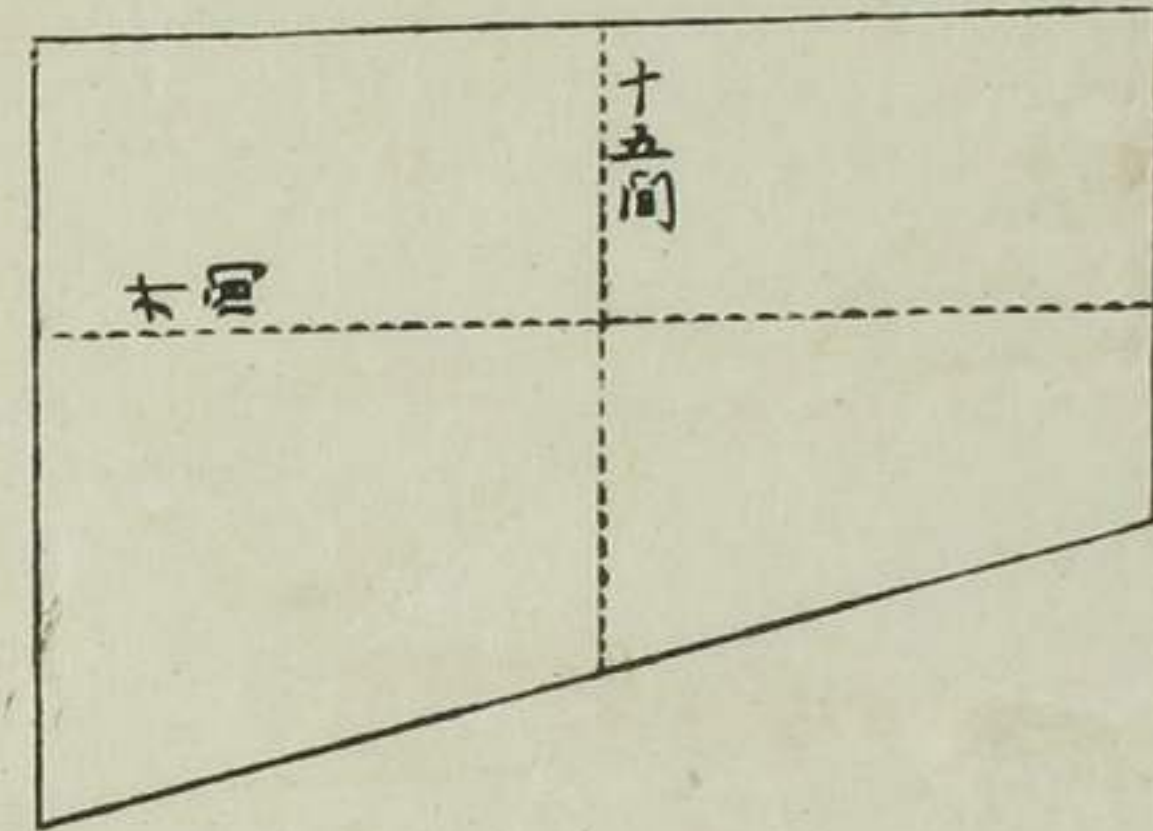
中畠 十五間一段斗六

所
至
地
の
形
ま
ま
中
と
て
打
て
横
と
宛
る
等
と
何
り

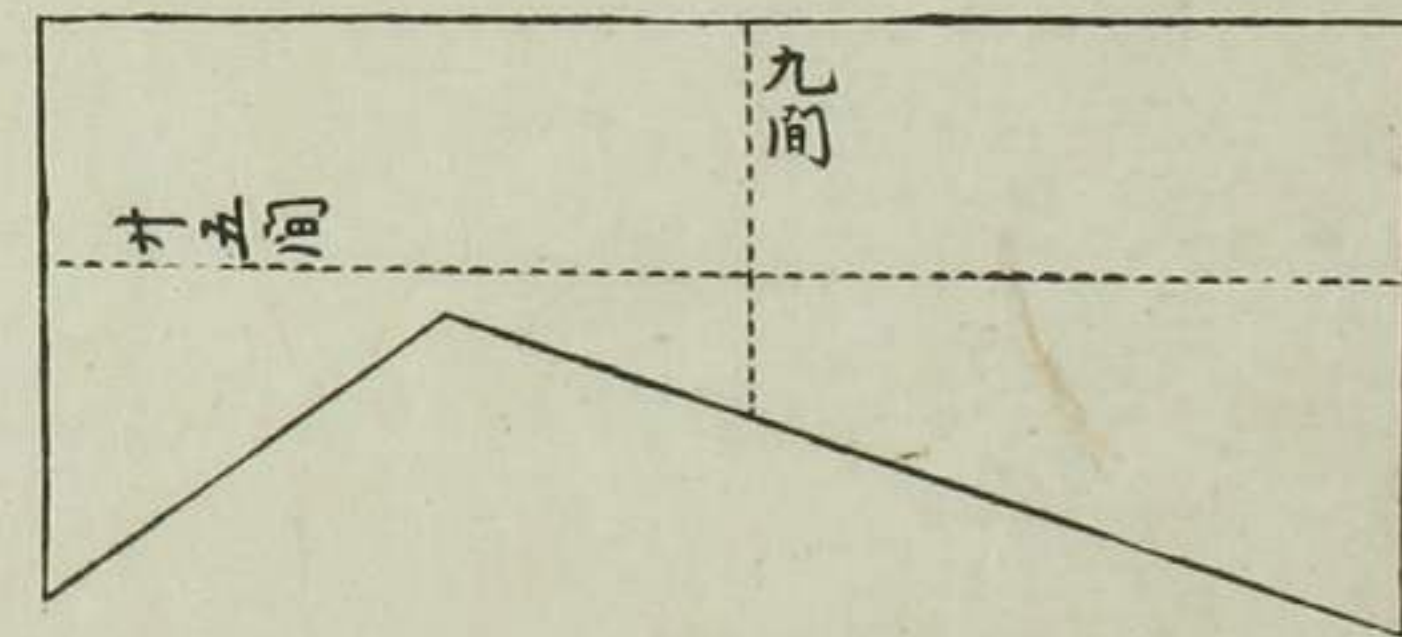
上畠 十五間一段二畝拾五步一石



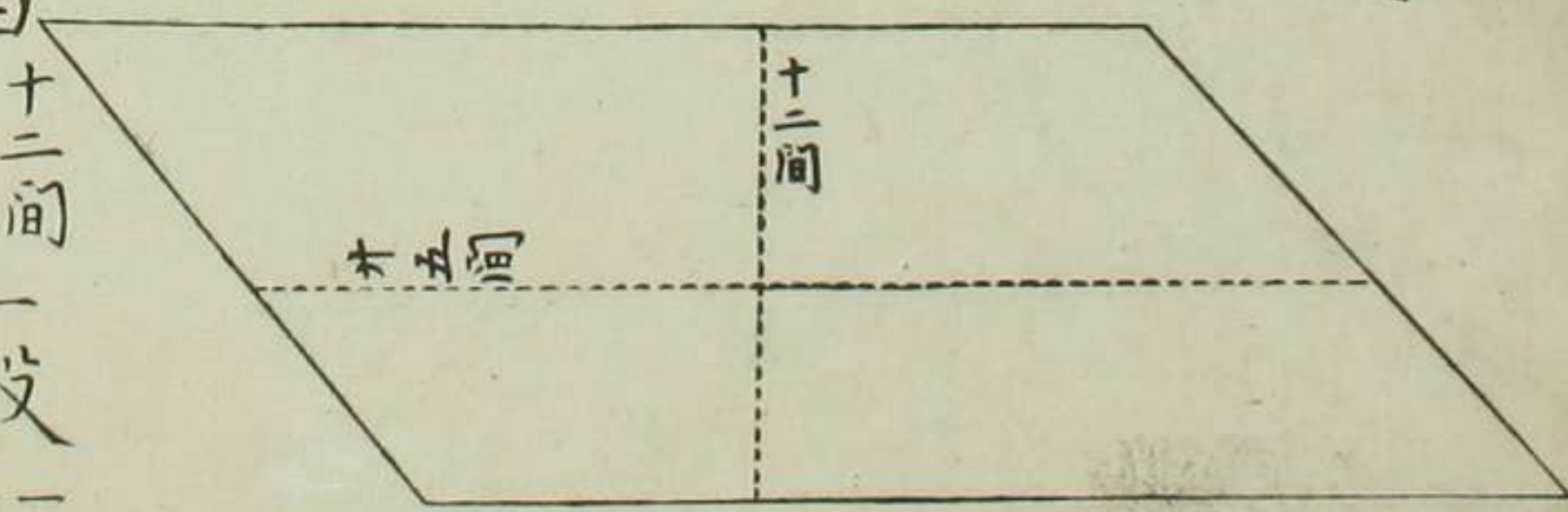
中畠 十五間一段一石

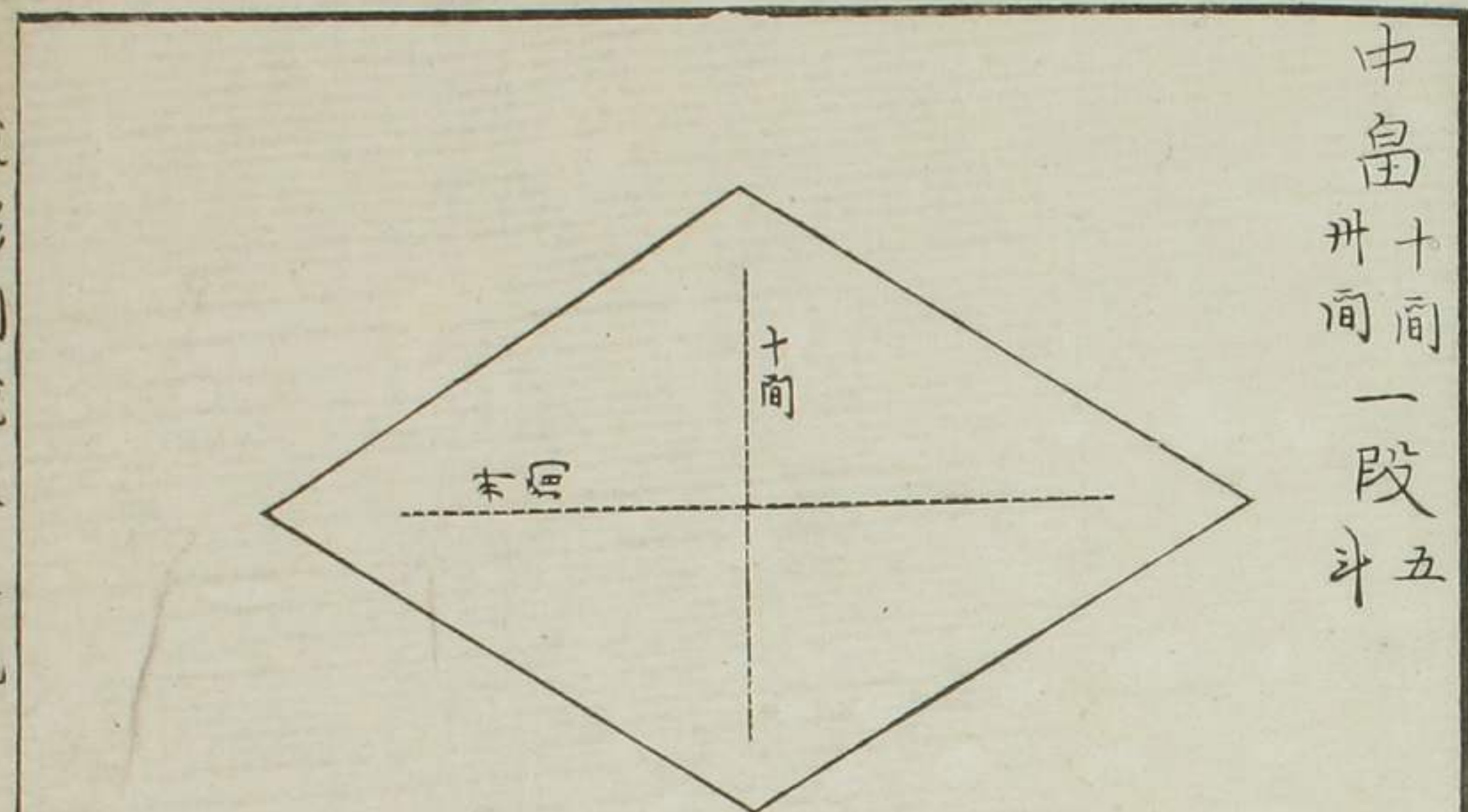


下畠 九間七畝拾五步斗六

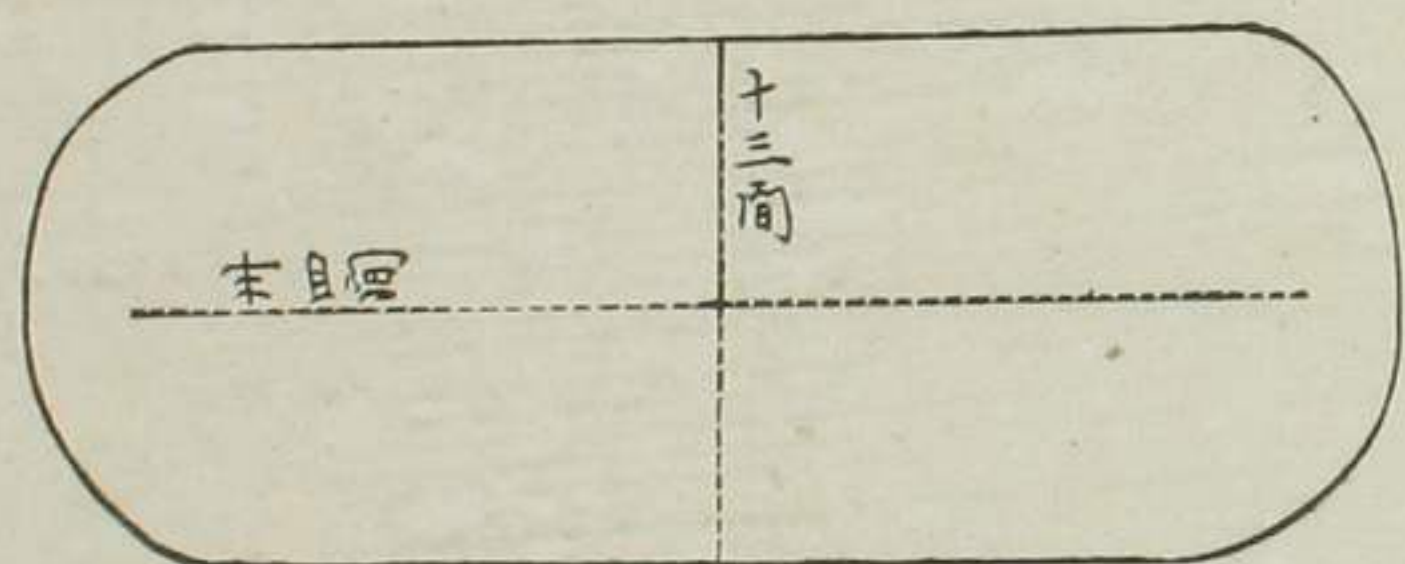


上畠 十二間一段一石





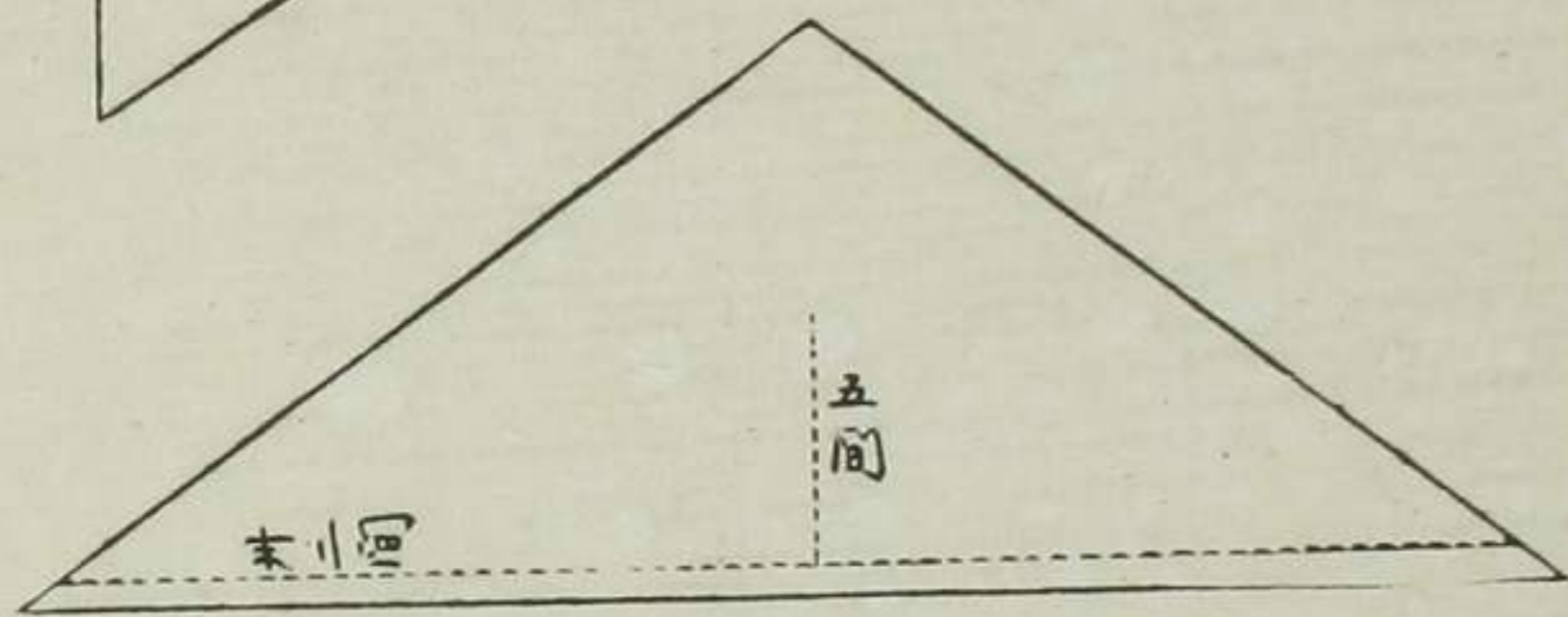
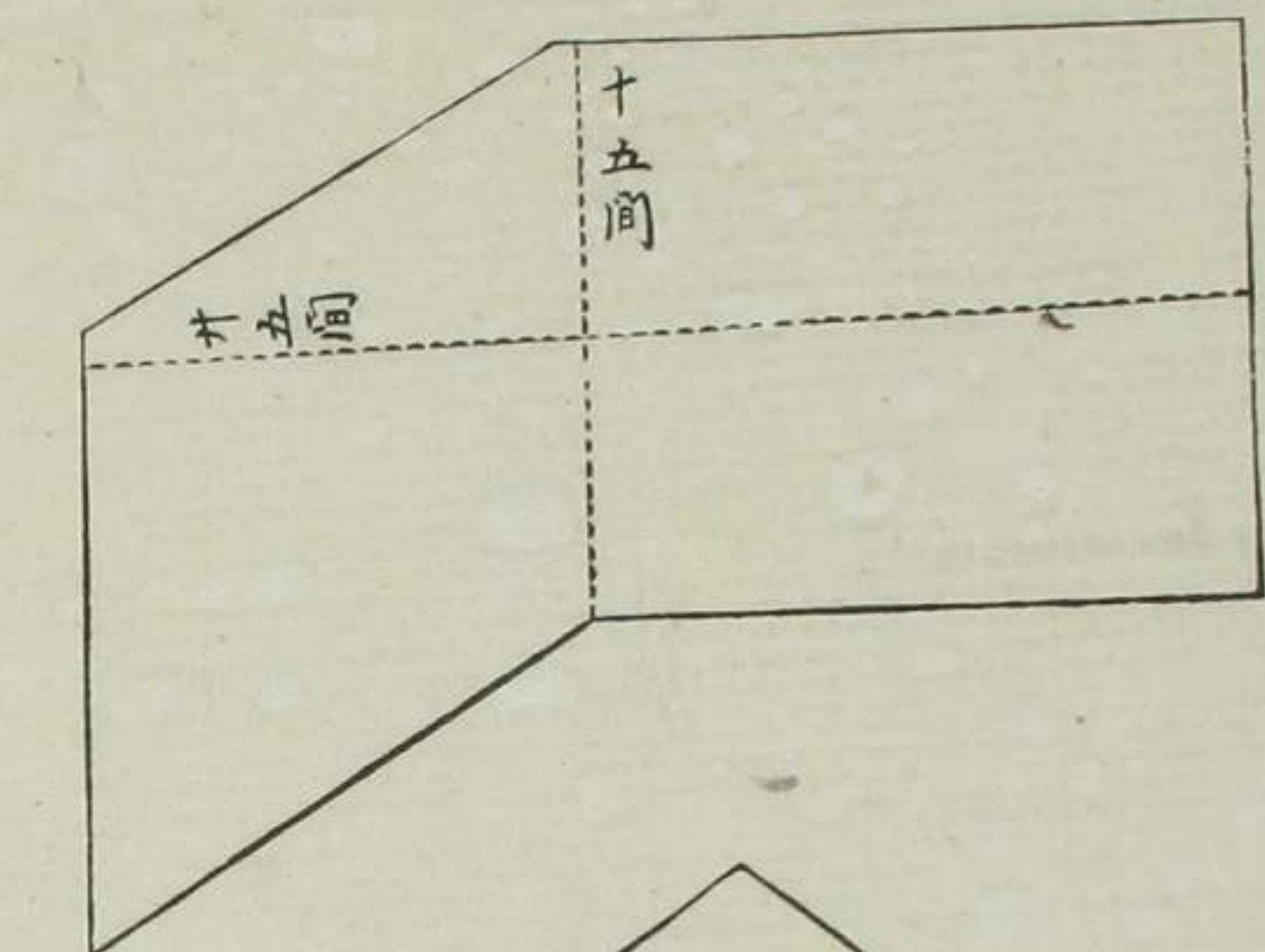
中畠 十間一段 斗五



下畠 十三間一段 四畝廿二步 斗四

うらうらあるはまろ
 えん出さたと偶々
 たる角よりたて
 卅四間よりたて

下畠 十五間一段 二畝拾五步 斗五



上畠 五間 五畝拾歩 斗三合

横乃尖、まて等出あり
 十間折等ありて五畝の
 横に究る等あり

通考宋紹興中圖寫墟畝選官按覆各戶各鄉造砧基簿仍示民以賞罰

蕃名アフテ一ケニングハンテラントレイン

景行紀曰遣武内宿禰察諸國地形欽明紀曰檢定田部丁籍此等並地圖田籍の衝より孝德紀曰宜觀國々壇塚或書或圖持來奉示是民部省圖帳乃原始ある也
按東鑑曰二品令求奥羽西國省帳田文已下文書而平泉館炎上之時燒失難知其巨細爰奥州任人豐前介實俊并弟橘五實昌兄弟暗注進西國繪圖辨定諸郡券契鄉里田畠山野河海悉見此中也注漏録目三所之外更無遺失と見えたりとも奥羽ハ極りの大國とあり實俊兄弟

其省帳田文郡郷田野のまじりて盡語を辨一徹とありと殊特々強記より右の如く相付一身に拂へば心も勤や一とらふ稗田阿禮讚岐永直等の聰明英才をよむる者ぬりざらざるも邊裔ハ強識語算の術を生みたり奇妙の書あり者注あり一とらふ事と書籍を要てより其の讀書人文字上の精まじりて自修の成る事一丁字と紙とありとありと者あり是書と記するがれなりとや和州栞曰津國豊島郡南郷村の社司今西氏の虎と田文ありく寸紙の如く幅一寸あり厚二界引て又横界ありて山川田畑墓原まじりて横よおてあ

里最初は文治五年御檢注加納田畑取帳とあり○延喜
 式勘造授田口帳書生四百二人紙三千八百張又班田使
 祇承屬一人從ニ史生三人一從各書生十四人從各一人あり
 凡常の檢地と致す奉納二人帳附二人勘定三人竿取
 手使共八人程と一隊あり水帳と造るもの田畑取
の野帳二通并田畑取
のより公義の野帳二通づより御中一渡一
づり渡り田畑取の係ハ檢者の目録に在り千村の案
内者も野帳二通とあり竿取より田畑の通何十
間何間とあり檢者并帳附方とあり檢者ハ田畑の
皆々守るべきやと帳に記さるり
 畔と油断なくきめぐる竿と植る田畑はしづみ入組
 の有るハ一方より見かたてハ皆遠くありありなり

と植は境よりと之を縄を繰り地方と云ふなり○百姓
 子授る田地の内は各々美田一區つゝ向當おく
 とも也俗に大國様と云ふ此向と實は他へきり
ハ千百姓ハ是を立ぐく減却み及ぶり又他
は金賃などの者ハ必この又山沼淺川沼津など云者
 上田と質やれおむるなりノビヤ十三
 の里表向は不姓なりゆり吾れども畝改の羸縮よ
 かき竿と入堂ものなり○定代の檢地は物成りて
 上より来る米と下より得る米とを勘へてその餘儀輕
 重何れと記ハ竿と穀考差はさぶ下下を宣かざる家
 子等も辨あざし○上見竿の何ハ六尺竿まで四圍と打
 する内の穀子と席と上せよと掬取升糧と一歩分

と擬して畝町より其の何れを以て究る也○門割地といふは一村の門を畫表ありて百姓より親疎ありて田
地を校割するありて其の地を以て上田と爲し、下田と爲して
下田より更に又下田を上田と爲して高結地、成の地を以て
かゝるは由志中墨の年と入て田地を割配各税則と平
よむ事とす、酷吏を以て其の地を以て公の
益なきとす、又は反て私の培克して百姓を傷むる事
皇政刑大觀云自丈量至今已逾百餘年、桑滄更易攤沒無
算是之、一門割ありては田畑の乱るる事、一或
謂校地ハ百姓窮乏、田税も以て第一と爲し、農夫ハ只税

則の儀との事、其事とあり、よの由志校地の究やうとす、
志皇の事の不備とあり、流やが村中校と夫の勤とあり、
かめり、中とあり、是事と執事の忠告と、其の儀を以て、
どげ、知志とあり、後通鑑宋紀云及其既種有司履畝増
之、故民皆疑懼と履畝ハ歩法とて畝段と究る事とあり、
○凡上村の百姓下村へ引移して上村の田と爲ると、上
村よりハ出依とあり、下村よりハ入依とあり、凡そ村名の
者よわとあり、て他より来りてその田地と爲ると、入依
とあり、○祖の代は、何百石ありて、その子孫よりあり、
来よとあり、其の後、檢地入るる時、水陸の無、其の石と扇書

子某の某は誰か記は是と云ふ所と云ふ家来は傳りつゝと
 家抱と云ふ年貢請役も惣領式の方へお返し分限の石代者
 手前かと一所は諸役も責とね務りより水代お作と云ふ
 大氏おし準なり凡回地の申よと云と控して穀物と云ふと
 下り田は極りつゝ所おれつゝ下向と村申は割配りお申
 他よと云ふと云ふ所と云ふ地は他と云ふしてと云ふ云々
 云々大と云ふ縁と云ふと云ふより相違と云ふと云ふ所
 せざらんと云ふ^{コレ}○池沿野原等の新開の見分の上平入
 高は地む地主は立て凡箇の起しと云ふと考べし四五は
 用増と云ふと云ふ神社仏堂稲干場土瓦場墓所古塚紀牛馬

捨所等入つてと云ふは段別を法のお書に記すと云ふ○百石
 の村五十石づつ二所一からよ三十石づつ持する者二人と云ふ
 也六十石と云ふ者一するづつ之れ計の向一人地領の言す石
 云々と持すると持添と云ふ○田地も少と云ふは弟より末は職
 人云々と云ふして一と云ふ縁と云ふと云ふと云ふと云ふは
 小云ふと云ふは後には各各と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 者と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 云々○凡一村の惣めつゝと云ふは徳藏經事と云ふと云ふは徳藏
 齋村の申田と云ふ準て寛文と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
 寛一と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

き地ハ身上一ノ前者ノ事ニ流ルニまき正レ方上何モ者ノ事
 小流るものあり是も亦も極ふはなして反く流る者の
 利と云やハ此故債と均ゆの意也持臣の校ハ何凡村中
 従事者ハ會者者ハくても持事所報多あまざんくぬは是
 との好くおんえて適當ニ究らるべき也思ひ持地の
 究めまきやうよいつい中ハあり又越路まで檢地極く
 ても村中地方均さるハ百姓窮し者多く越路まで持地
 少く多くして地方均さるハ百姓少くして窮さる事
 のむらよとて持地を平均せんとやハんるべし孟子云
 經界既正分田制禄可坐而定也注有仁君欲行仁政使彼

此均平田無多少之差別必從經界之事做起然とも經界
 ハ正して土地上下られバ優盛の輕重と平均よと
 ると檢田の存とと

與保呂 書紀〇雄略紀ニ直丁と都加倍乃與保呂と續延喜
 野と與保乃と讀又文德實録ニハ壯丁の二字と袁との
 三川めるとハ丁ハ男夫の役なれば壯丁又新撰字鏡
 ニ野と与保呂乃須知と讀之和名鈔圖註脚腓也与呂保
 と河と与呂保と与保みとくバ夫足人足と云ふがど
 と云ふを是よと
 出づりよや
 通加波禮 古事記〇今も 衣敷知 同上家立あり持戸丁
 ハ役字の音と然どもエト 發民 萬葉集〇今尚 差
 へハ万葉集とよも通し用う 夫立の名あり

役顯宗紀徭
徭持統紀○通證
人夫貞觀儀式○天武
紀於保多如良

と割り今夫
夫足室町
夫凡
人足

役丁
晉書○河拍齋集云民財空虛弊議惟國朝使民之
法除里甲正辨外如糧長解戶馬頭船頭館夫水夫馬

夫祇候弓兵色隸門禁厨斗之類無所不役固已多矣但國
初法令嚴明編食有數故民力未至甚勞近年以來則常役

之分雜派夫役紛々而出如所柴夫檣柴夫修河夫修倉夫
運料夫接遊夫站夫舖夫開夫淺夫之類因事編食蓋有不

可勝數者矣此他子修子備夫子修子隱
公役子荀徭役漢書徭

夫子塘子長子の子名子明子會子典子出子了子
野役子同上若起野役逐

作子田子役子同上太宰之職以八則
人各帥其所治之

民至千遂之
運丁子仕學子運夫子筆談子人夫子荒政子要覽子

大旗之下
蕃名アーンデーリングデルホルツ

夫使民以時時以作事事以厚生不違農時子ハ皆民の農

隙子時子あ子て公役子と課子と子あ子り皇極紀大兄王曰願

十年不役百姓以一身之故豈可煩勞万民哉孝德紀曰於

農月不合使民又曰凡仕丁者每五十戸一人以充諸司續

紀寶字元年詔曰自今以後宜以十八為中男子二十以上

成正丁子按書言故事註唐制男子二十一歲差丁役隋文帝

又唐書授田十畝歲輸粟二斛謂租丁物部氏曰蓋男子二

八而精通有為人父之道當是時士大夫之子志為士大夫

農工商之子志為農工商其無志者亦衆矣迺如昭公十九

有童心是也三十而受室受田始稱一夫前是則餘夫也
賦役令曰凡正丁歲役十日若須收庸者布二丈六尺一日
二尺六寸須留使者子謂正役之外滿三十日租調俱免役日
少者計見役日折免通正役並不得過四十日次丁二人同

一、正丁其丁起役之日、長官親自點檢、并開衣糧、周備然後發遣。若欲雇當國郡人及遣家人代役者、聽之代役。ハ即今の名代役と云ふがごとく申比ふり、清頃と云ふと略も重き亦代役なるを和訓葉まうげめんハ保人あり未信徧取保とあるハうげと云ふと云ふあり民部式曰凡人生五男、成正丁免父課役、雖一人闕猶役免除。凡式は諸國毎に正税の外修理料、池溝料及堰河坊料と云ふものハ一切は田地用水の川溝、墾塘子年々の修葺雜費及夫飯米を充給儲の爲に差ふと云ふとあり聖武紀に遠江國荒玉河堤決三百餘丈、役單功三十萬三千七百餘人、充糧

修築と云ふと云ふあり、一、隋煬帝建洛邑、毎月役丁二百万人、丁男不充、以婦女充役、と云ふ文献通考あり、一、臨時の大修理を云うてハ是云ふとの夫役ハ最稀と云ふ一、
通證曰 後土帝明應八年九月遠江洪水湖決して水涸成陸、今名今切者其決處也、歷代備考曰 後柏原帝永正七年八月廿七日遠州今切洪水高浪して濱名驛橋共ニ海中に轉没を感云山津波にて宝螺の出ると云ふと云ふ
聖武の御宇既又漫吹切云
さきと云ふ
と云ふり蓋水脈の去りたると云ふ
役丁と云ふて田地等の修葺と云ふハたやと云ふと云ふ
里凡、人夫と集れハ夜四更よりと云ふとの官所は燎火と云ふ
焚て味爽と云ふと云ふ獵獵と云ふ取と云ふと云ふ
今次是管監人ハ夙子夜と云ふカヤ

竭一煩と志とていふふも其功の後とて
一月と志とていふふも其功の後とて
用内且ハ後の世もていふふも其功の後とて
唐書孟元陽為曲環軍中大將環使董作西華
屯元陽盛夏芒履立福田中須役者退而後就舍故其田歲
無不稔軍中足食とていふふも其功の後とて
勢の集るもいふふも其功の後とて
歩頃来りま村よりハ昼過ぎとていふふも其功の後とて
三四日ゆり人足法色費ゆりな組合の村役人談合
一請負と附んとて人足法色入用積入れと取らるる也

とて請負つ後して水引方も法を伝へていふふも其功の後とて
役とて一領村との力と持て川除道橋揚を揚引の役我
勤りともいふふも其功の後とて
あつる組合ハ法事承むこゝろといふ合何もと云合めち
ごるぬやいふ請負もいふふも其功の後とて
引んぐといふ決り此處ハ請負もいふふも其功の後とて
村ハ平均もいふ法もいふふも其功の後とて
ハ魚魚の村ハ下村より集りて引よよも水口村の田ハ
不足なくいふ又ある村ハ上村もいふふも其功の後とて
のりいふ法もいふふも其功の後とて
水原の村もいふふも其功の後とて

う又村役人も婦人足とと不精なる者あり又是より
不坊なりいさむる名主の害を福元より人足五人と
福元ハ三人と出一定は得と欠て村方ハ働やう人
とれども其ハ我ハ村のちと引田地なく己らなる
さゆゆ急何てもめて福元人足又ハ遠色方遠せて村
村事よりいさむる名主組頭以味とる○夫春ハ耕
僅一畝ハこのりも收り且ハもと通一川と濠ハ又ハ海
江と成き山野と実き地と修め陵と平ふとふのさぞ敷
何ふるありあき凡ハ席上の軍議とふふくも場
就て其功と政方の実係と踐むれば空論なる○前

備邊使とてふと田地川濬土木運輸より何々あり
て助役修管とて官に金と納て官に金と以て支用と償
あり又高買の徒官も請て金と百姓より募出さく己
の「あまてそ用事と包辦あり共々そ中より取て
利と射の計ともいさむるに後世多くそ冤屈と被る少か
らば大學衍義補に樸買者通計坊勢該得稅錢總數俾高
先出錢与官買之然後聽其自行收稅以為償也元初有以
銀五十万兩樸買天下差發者有以銀五万兩樸買燕京酒
課者有以銀一百万兩樸買天下河泊橋梁渡口者耶律楚
材云此是姦人欺上罔下為害甚大咸奏罷之樸買ハ此云

清負殿の事あり○農民の難為亡命の堪ざらざるのハ戸
 徭銭戸丁役より甚しむハハハ又従て轎夫馬夫も充ら
 ぬハハハ肩の骨を傷馬ハ脚の蹄を削り玉にせり
 ハハハ劉陶鑄銭議云夫欲民殷財阜要在止役凡百姓ハ
 耕作と勤んとおのりんとハ役多くとハ耕一芋の暇
 なくん厚く播種の時と云はば後天風多き時
 阿きり上る阿きり下る阿きり阿きりハ必後天風多き時
 遇て不納の年々及も阿きり風雨の事ハ天氣の志
 ぞぞぞれば人力のいんとも多きをぞぞぞ阿きり人
 省ハも風雨のむねさたさたハ初め何てハ獲收しむるも

とあり周公且詩迨天之未陰雨徹彼桑土綢繆牖戸とい
 ふと云いて用いやと云ふことなり丁夫と指使ふこと
 の常ハ懈弛は愈々又百姓の困憊と云ハ僅々十
 二月より正月迄までの中たる間て年中の習少の邊阿
 らバ秋昼とも子屋と葺き索と綯い席と織り苞と綿と
 農具と繕い家事と務むるハ但ハ國の百姓ハ冬より春
 まで一日も休まず封らまらぬ中内の業と勤めり程子云
 古者功任之事皆於冬月間隙之際如修完室廬墻垣之類
 皆為来年計皆是一歳之事既終則慮其始也怒して畦溝
 塘隄よむてを犁擺種下秧挿又ハ草木を刈伐肥糞と封

運めり水陸乃事多しと云々一按子毛詩執官功註
功葺治之事也或云公室官府之役也王制云用民之力歲
不過三日是也賦役令凡正丁歲役十日とあり然りと
和漢をよむりハ農を回し軍役と勤しる賦をれば
之時の農ハ耕作のころを士ハ吏務軍事と知はる
ふゆ急を今一撮ハいんとも云且女と遷夏て諸倍
諸工通あり又僦者傭僱高僧漁獵をく民戸の等分析
教浪とちりさうはる獨丁夫の役多る者ハ百姓バウリ
さうむりりのぶとく歳は三日十日さうの公役とい
ふとのいきてま一日よと三度一月ふと十度ふと
驅

従らざる者一申おまごハ一月ハ三度の役もあると要
患とやよしさうはる三度ハ六度ハ九度ハ十二
度とあり十二度ハ乃至廿四度とありさうはる民とい
命と堪ふと續紀曰無知百姓不閑條章規避徭役多有
逃亡涉歷他郷積歲忘歸其中縱有悔過還本貫者縁其家
業散失無由存濟望請能悔過歸者給復一年継其産業建
武二紀仕丁役事以十町田地毎年一日役可令勤仕也
とありさうれば 後醍醐天皇の御宇ハ一年一度の
夫役とありと云々さうはる夫ゆき足利氏の時ハ一ヶ月
ハ八九度の課役とありさうはる城未嘗その難儀とい

凡之最久記は國々に守護と云き郡郷と地頭と云き段
別兵糧と云取る内領家ハ地頭と云ぬと地ハ領家と
あつとて建武記曰町別錢貨人夫傳馬事稱先例被懸百
姓之條不可然向後以撫民之儀可為領主之所役應仁記
ハ段別棟別と云々の様とあつて護責をれば必々の
名主百姓ハ耕作と志地を田畠と捨てて食一足と任
てとて行とありじりより出浪出候ハ百姓の羅極
しとてかくのごとく或書ハ百姓の出浪ハ大抵田一段
ハ金子二分或二分二銖と云の租と通例と云ふは
そのありふと大莊頭と云く出浪と云ふは有りといり

夫農の物本と云ふハ米穀なり是と米牙ハ零糶と
るハ豊年の時ハ米價賤して又凶歲ハ米直騰貴とい
つと市ハ鬻と云き粟顯あり是農の常と云ふは
事と云ふは民の課役免さるるハ民の
の恒例とて申不就て 仁徳天皇浪華高津宮ノ都一玉
ハ浪速上古圖説曰高津宮ハ舊址 登高臺遠く眺望し玉
ハ今の東高津村高原の地なり 小乃詔曰烟氣不起於域中以為百姓既貧而家無炊者封
畿之内尚有不給者況乎畿外諸國耶自今之後至于三載
悉除課役息百姓之苦自是日始黼衣鞋履不弊盡不更為
也温飯煖羹不酸餒不復易也三稔之後諸國悉請曰課役

五免既經三年貢稅調以修理宮室然猶忍之不聽矣十年
甫科課役以構造宮室於是百姓不令而扶老攜幼運材負
簣未經幾時而宮室悉成故於今稱聖帝竟宴和歌集天慶
六年 仁德天皇と詠多師輔の歌 大鷦鷯天皇がよ
るの煙天のひつぎともえはさる共三年ハ尚有る
一十年課役と免されしこと豈奪いしもの謂ふらん
や皇帝の聖とる所以なるを七錄齋集賦役論云以版
籍天下之甲兵以墾田定天下之賦稅國家之定制也而因
時通變之道亦存其中唐之租庸調租出於田調出於家庸
出於身令不煩而易守而又有役二十五日役三十日之所

免水旱蟲蝗十損四十損六十損七十以上之所免則周官均
節之遺也然兵興以後籍亡而征重其勢不得不役於地斷
此揚炎之改租庸調為兩稅與張說之改府兵為彍騎未可
同日而論也 畧中夫宋乾道之時汪灌一松陽之民首倡義役
役先後視籍田多寡視等行之三十年訟不抵於有司而謂
大夫師長不能叛建規模成循理之鄉信義之里亦天下之
所不信也是故仲尼不對季孫之問田賦漢高怒責蕭何之
治未央萬世之計皆慮之於微而究之春秋所書宣公之稅
畝成公之丘甲哀公之田賦惡其大變古而亟思復者惟在
周公之典則今之所謂周公之典者何為乎郊祀之戶籍薦

小野岡
氏藏書

天大誥之峻誅元賊吏亦其意也

成形圖說卷之九終

